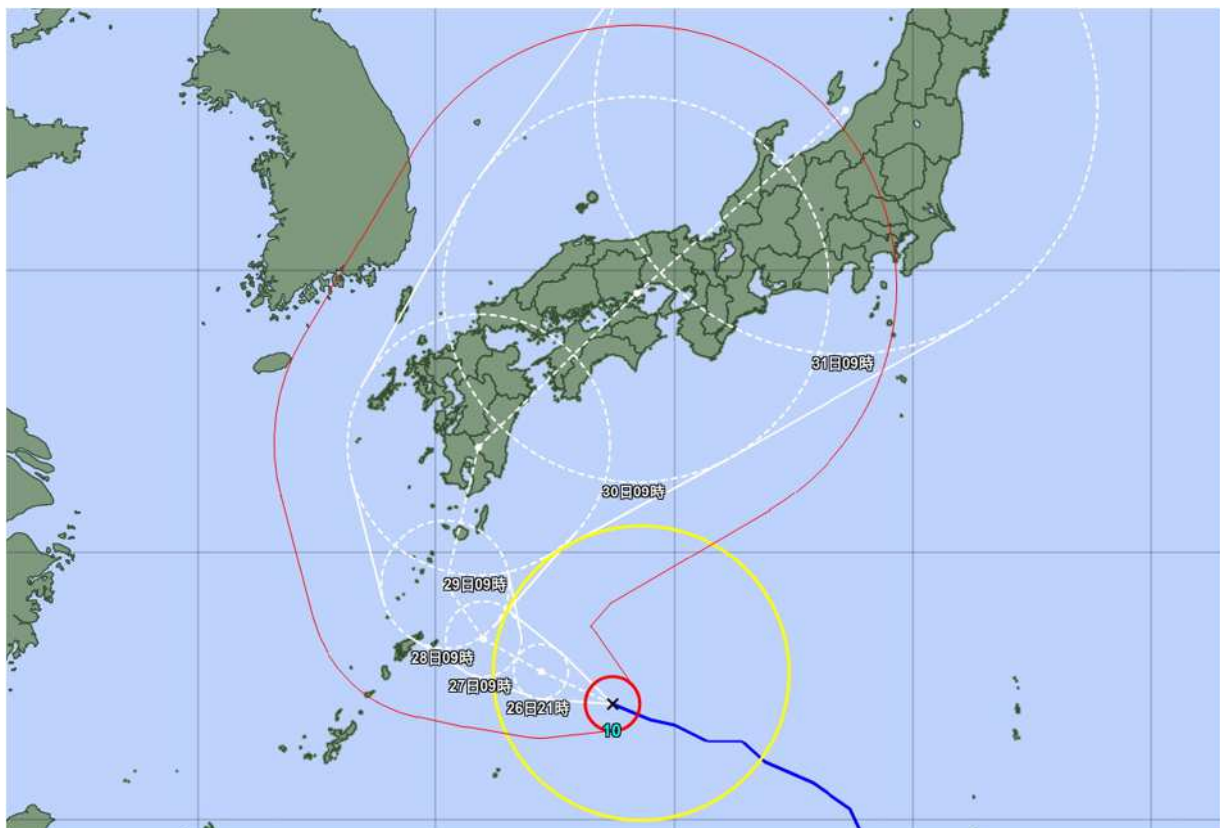


(表題) 台風第10号の接近に伴う農作物等被害対策情報について

(担当) 農業技術防除センター 専門技術部

- 気象庁によると、強い台風第10号は、8月26日6時に日本の南の北緯26.55度、東経134.30度であり、1時間におよそ20キロの速さで西北西へ進んでいます。中心の気圧は980ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は35メートルで最大瞬間風速は50メートルとなっています。
- 西日本を中心に次第に風が強まって27日から28日にかけて猛烈な風が吹く見込みで、九州北部地方では28日に最大風速20メートル（最大瞬間風速30メートル）の風が吹く予報となっています。
- 今後、台風は日本の南を発達しながら北西に進み、27日以降、西日本や奄美地方に接近する見込みです。
- このため、台風接近に伴う農作物等被害対策を別紙のとおり取りまとめましたので、被害を最小限に抑えるための現地指導を徹底してください。

【参考：進路予想図（8月26日9時時点、気象庁ホームページより）】



# I. 水 稻

## 1. 生育状況

- (1) 早期・山間早植え水稻 登熟後期～成熟期
- (2) 普通期水稻 穂ばらみ期～乳熟期

## 2. 作期・品種別の対策

### (1) 早期・山間早植え水稻

- ①収穫期を迎えている圃場は、できるだけ台風接近前の収穫に努める。収穫できなかった場合は、台風通過後の排水に努め、なるべく早く収穫し品質低下を防ぐ。
- ②登熟後期の圃場では、耐倒伏性の弱い品種では風雨により倒伏する可能性が極めて高い。また、圃場が落水状態であれば乾燥風の影響で急性萎凋する可能性もあるため、湛水して蒸散の増加に対応できるようにする。  
台風通過後は、一旦落水し、その後間断灌水とする。倒伏した圃場では、排水に努め、登熟促進と穂発芽防止に努める。

### (2) 普通期水稻（夢しずく）

- ①強風による登熟阻害（乳白米、着色米などが増加し、品質の低下と共に千粒重も小さくなる）が懸念されるため、深水にして水稻を保護する。  
倒伏したものについては、できる限り引き起こし、草勢の回復を図る。

### (3) 普通期水稻（ヒノヒカリ・さがびより）

- ①強風による稔実阻害（不稔、白穂などの発生）や登熟阻害（粃ズレにより病気や雑菌の感染）が懸念されるため、深水にして稲体の振動を少なくする。

### (4) 普通期水稻（ヒヨクモチ）

- ①強風による稲体の振動を少なくするため、深水管理とする。

## 3. 共通の対策

- (1) 台風前は深水管理を行うが、通過後は浸冠水や汚濁した水を排除し、新しい水と入れ替えて、水稻の根の機能維持や生育が回復できるよう、適切な水管理を徹底する。特に、海水の流入による浸冠水や潮風害を受けた場合は、直ちに排水し真水と入れ替える。その後、掛け流しまたは少なくとも 2～3 回は水を入れ替えて除塩し、生育の回復に努める。
- (2) 台風通過後は受光体勢が乱れ、紋枯病及びウンカ等が多発する可能性があるため、台風通過後、発生には十分注意する。特に、すでにトビイロウンカの発生が多い圃場では、台風通過後に圃場を確認し、適切な防除に努める。
- (3) 台風通過後は白葉枯病の発生や被害が拡大する可能性が高い。発生が認められた場合、水稻に露が付着している時間帯は圃場に入らないようにする。
- (4) 中晩生品種（さがびより・ヒヨクモチ等）において、台風通過後に曇天が続く場合は、粃枯細菌病やいもち病等の穂枯れが発生しやすくなるため、出穂期～穂揃い期頃の防除を実施する。

## II 大豆

### 1. 生育状況

- (1) 今年は、7月7日前後と、梅雨明け前後の7月20日前後に播種された圃場が多い。
- (2) 7月上旬播種圃場は開花期、7月下旬播種圃場は本葉5~10葉程度展開している。今年は、地区・圃場によって出芽や降雨の状況が異なっており、生育も大きく異なっている。

### 2. 技術対策

- (1) 台風による大豆の被害は茎の損傷、葉の裂傷等があり、生育量・風速によっては倒伏する。倒伏した場合は、収量や品質が低下するので、できるだけ引き起こす。
- (2) 台風通過後は、葉の損傷による葉焼病に注意するとともに、紫斑病についても的確に防除する。
- (3) 有明海沿岸では、潮風による塩害の恐れ（大豆の生育および収量は、塩分の影響が極めて大きく、大豆は土壌中の塩分濃度が、0.03%でも著しい被害を受け、0.125%では収穫皆無となる）があるため、潮風を受けた場合は、台風通過後、散水し塩分除去に努める。
- (4) 降雨量が多くなれば、晩播のものでは冠水が想定される。時間が長引けば、被害が増加するので速やかに排水に努める。

## III 野菜

### 1. 生育状況

- (1) 施設野菜の主要品目であるイチゴ、キュウリ、トマト、ナスは、定植準備期であり、一部の作型では収穫期、定植直後の品目もある。イチゴは、育苗ベンチ等で育苗を行い、苗の仕上げの時期である。
- (2) 雨よけ野菜の主要品目であるハウレンソウとコネギは、播種時期の違いにより播種期から収穫期まで多くの生育ステージがある。アスパラガス、夏秋キュウリ、ピーマンは収穫期である。
- (3) 露地野菜の夏秋ナスは収穫期、キャベツやレタス、ブロッコリー等は育苗期から定植直後または生育初期、タマネギは苗床の土壌消毒時期である。

### 2. 事前対策

#### (1) イチゴ

- ①強い雨風による病原菌の飛散や長時間の濡れによる感染率の上昇が懸念されるので、殺菌剤による台風接近前の予防散布を必ず行う。
- ②苗は寒冷紗等でべたがけを行い、寒冷紗が吹き飛ばないように直管パイプやブロック等で押さえる。
- ③台風が接近した場合、雨よけ用のビニルや遮光資材は取り除く。
- ④育苗床は排水溝を再度確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- ⑤ビニルを被覆したままのハウスで密閉が可能な場合はハウスバンドを締め直し、台風の強さによっては、除去できるように準備を行う。密閉が不可能なハウスは早めにビニルを除去する。
- ⑥加温機、自動開閉装置等の装置や関連施設の対応も十分に行う。

⑦高設栽培システムで、天井ビニルを除去している場合、ベッド間を直管パイプ等で連結し倒伏を防止する。

⑧タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

#### (2) 施設キュウリ・トマト等

①密閉するハウスはハウスバンドを締め直し、妻面付近の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。

②栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。換気扇を回す可能性がある場合は、停電に備え発電機を準備しておく。

③育苗中のハウスは密閉できるように準備する。また、断水や停電時に灌水が不可能な栽培中のハウスは、灌水用の水をハウス内に確保しておく。

④栽培が終了したハウスは早めにビニルを除去する。

⑤他はイチゴの④⑥⑧に同じ。

#### (3) 雨よけ野菜

①アスパラガス、コネギ、夏秋キュウリ、ピーマン等、収穫可能なものは早めに収穫しておく。

②栽培中のハウスは、強風によるビニルの破損を防ぐため、防風ネットや寒冷紗等による被覆、らせん杭とハウスバンドによる補強、破れ部分の補修等を行う。

③雨よけハウスは風に強い構造でなく、通過時の風の強さや向きによってはビニルを緊急に除去する必要があるため、直ちに対応できるよう事前に準備しておく。

④アスパラガスは、強風による茎葉の損傷を軽減するため、支柱が抜けかないよう補強するとともに、ネットをしっかりと張っておく。また、台風被害による草勢低下や褐斑病を始めとした病害の発生が予想されるため、事前に追肥や防除をしておく。

⑤播種予定のコネギ、ハウレンソウ、ミズナ等は、台風が通過した後、直ちに播種できるよう圃場を古ビニル等で被覆する。

⑥大雨に備えて排水溝の詰りがないか確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。

⑦タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

#### (4) 露地・夏秋野菜

①果菜類は、収穫可能なものは早めに収穫しておく。

②果菜類は、強風による茎葉の被害を軽減するため、支柱や防風ネットの補強を行い、伸長した側枝は支柱にしっかりと誘引する。また、台風被害による草勢低下を防ぐため、事前に追肥をしておく。

③マルチは強風で飛ばされないようにしっかりと止めておき、必要に応じて畦間湛水を行う。

④土壌消毒を行っているタマネギ苗床は、被覆資材が強風で飛ばされないように海苔網等で抑える。

⑤セルトレイやポットで育苗中の苗は、被害を避けるため倉庫等に搬入する。

⑥定植直後のキャベツ等は、圃場を不織布等でべた掛けする。

⑦大雨に備えて排水溝の詰りがないか確認し、緊急時に備えて強制排水の準備を行う。

⑧タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

### 3. 事後対策

#### (1) イチゴ

①台風の通過後、被覆していた寒冷紗等を直ちに取り除く。

②育苗床が滞水している場合は、直ちに強制排水を行う。

③茎葉の損傷等により病害発生のおそれがあるので、薬剤散布を必ず行う。また、同時に草勢回復のために葉面散布剤を混合する。

④茎葉が汚れた場合や潮風害のおそれがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。

⑤苗の傷みがひどい場合は、直射光線を防ぐため、寒冷紗等を被覆して草勢の回復を図る。

## (2) 施設キュウリ・トマト等

①栽培中で茎葉に被害があり、浸水した圃場では、イチゴの②③④と同じ。

②茎葉の被害が著しい場合は、整枝、切り戻し、植え換えを検討する。

③被害がなかった圃場でも、葉面散布剤を混合した薬剤散布を行う。

④防虫ネットが破損した場合は早急に修復する。

## (3) 雨よけ野菜

①天井ビニルを除去した場合は直ちに展張し、ビニルの破損部があれば補修を行う。

②ビニルを閉め込んだハウスは、台風通過後は速やかに換気を図る。また、軟弱野菜類でべた掛けをしたところは、台風通過後は早急に資材を取り除く。

③茎葉の損傷や泥はね等による病害発生が懸念されるので、低濃度の殺菌剤散布を行う。このとき、草勢回復のための葉面散布剤を同時に混合する。

④茎葉が汚れた場合や潮風害のおそれがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。

## (4) 露地・夏秋野菜

①茎葉や果実が風害で損傷した場合は、損傷部を除去する。

②畦間に湛水している場合は、過湿による根傷みを防ぐため、直ちに排水し、マルチを畦の肩まで上げて余分な水分の蒸発を促す。

③茎葉の損傷や泥はね等により病害発生が懸念されるので、低濃度の殺菌剤散布を行う。このとき、草勢回復のための葉面散布剤を同時に混合する。

④支柱や誘引資材が被害を受けた場合は補修を行う。

⑤倉庫等に移動した苗は、急激な環境変化を避けるため、寒冷紗等で被覆したハウスに移す。

⑥キャベツ、ブロッコリーの定植予定時期が大幅に遅れる場合は、灌水のみで栽培し、定植前に液肥を施用する。

⑦土壌消毒を行っているタマネギ苗床のビニルがはげた場合、早急に補修を行い、雑草種子等の混入を防ぐ。

# IV 花き

## 1. 生育状況

### (1) 施設栽培

①電照ギクは定植期から出荷期のものがある。

②バラは収穫期間で一部育苗期のものがある。

③カーネーションは育苗期であり、中山間地は出荷期となっている。

④トルコギキョウは定植準備～定植期で、中山間地では出荷期となっている。

### (2) 露地栽培

①キク、シンテツポウユリ等は生育期から出荷期のものがある。

## 2. 事前対策

### (1) 施設栽培

- ①花き栽培の大部分の施設は、ビニルパイプハウス、またはAPハウスであり、台風による被害を最小限度にするためには、次のとおり点検・補強を行う。
  - ・ハウスバンドの固定確認を行い、伸びているものは張り直す。
  - ・天井ビニルを防風ネットや海苔網等で押さえる。
  - ・らせん杭の設置間隔や機能が十分であることを確認し、らせん杭の強度を高める。
- ②栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、吸気口を閉めて換気扇を回す（吸気口を完全に閉めるとブレーカーが落ちるタイプのものは、吸気口に隙間を設けるか、換気扇の回転数を落とす）。
- ③加温機、自動開閉装置等の機材や関連施設の対策も十分に行う。
- ④栽培が終了し、土壌消毒等を行っていないハウスは、早めにビニルを除去する。
- ⑤タンクに清水をくんでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

### (2) 露地栽培

- ①倒伏・茎曲りを防止するため、ネット上げやネット及び支柱の固定を行う。
- ②圃場の周囲に排水溝をほり、排水条件を良くする。
- ③収穫できるものは早めに収穫する。
- ④マルチ等は飛ばないようにしっかり止めておく。
- ⑤タンクに清水をくんでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

## 3. 事後対策

### (1) 施設花き

- ①破損したハウスでは修理を早急に行い、雨がかからないようにする。
- ②ハウス内に水が入った場合は、早急に排水を行う。
- ③倒伏した場合は、速やかに元に戻し、ネットや支柱で固定する。
- ④施設を閉めこむと、灰色かび病等の病害発生のおそれがあるので、台風通過後、速やかに換気し、殺菌剤の散布を行う。また、草勢が低下している場合は、葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- ⑤急激に天候が回復した場合、強光による葉焼けを防止するため、光量に応じた遮光資材のこまめな開閉に努める。
- ⑥電照ギクは、電照装置が正常に稼働しているか確認する。

### (2) 露地花き

- ①倒伏した場合は、速やかに元に戻しネットや支柱で固定する。
- ②圃場に水が溜まった場合は、速やかに排水を行う。
- ③茎葉が汚れた場合や潮風害のおそれがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
- ④茎葉の損傷等による病害発生のおそれがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- ⑤マルチ下の土壌が過湿状態にあるときは、雨が上がってからマルチをはぎ、畦肩を露出させ土壌を乾燥させる。

## V 果樹

### 1. 生育状況

#### (1) カンキツ類

- ①露地カンキツ類は、果実肥大期である。
- ②ハウスミカンは、大部分の園地で収穫終了となっている。

#### (2) 落葉果樹類

- ①ナシ、ブドウは露地栽培の収穫中である。
- ②カキ、キウイフルーツは果実肥大期である。

### 2. 事前対策

#### (1) 露地カンキツ類

- ①強風により枝葉や果実が傷つき、かいはよう病が発生しやすいため、苗木、普通温州、中晩柑などでは、台風襲来前（1～7日前）に銅水和剤等の薬剤散布を行う。
- ②高接ぎ更新樹や開張性の強い品種「ヒリュウ台」や風が当たりやすい園地では、強風による枝折れが心配されるため、支柱を立てて枝を誘引、固定する。また、幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- ③大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- ④マルチ被覆園では圃場を点検し、マルチ押さえを増やすなど、風により被覆資材が飛ばされないようにしておく。
- ⑤風向きによっては潮風害が発生するおそれがあるので、散水のための用水を確保しておく。

#### (2) 施設栽培

- ①ハウス全体を点検し、破損個所の修理、ハウスバンドの締め直しを行う。
- ②周年被覆のハウスでは、強風時にはハウスの強度を高めるため、完全にハウスを密閉し、換気扇を作動させてハウス内を負圧にし、ビニルのあおりを少なくする。
- ③パイプハウスの強度は一般に風速 30m/s とされている。風が強すぎる場合にはハウス本体を護るために、ビニルを除去する。

#### (3) 落葉果樹類

- ①成熟期を迎えている樹種で収穫可能なものは収穫する。
- ②果樹棚の点検を行い、破損個所等の補修を行っておく。また、上下のあおりで、果実のスリ傷や落果が増えるため、パイプによる補強やアンカーを増設し引き下げを行う。
- ③枝葉の損傷や落果防止のために、結果枝を誘引・固定する。
- ④幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- ⑤強風雨によりカキの炭疽病等の発生が増加するため、台風襲来前に薬剤防除を行う。

### 3. 事後対策

#### (1) 露地カンキツ類

- ①潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後なるべく早く清水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- ②強風や土砂崩れ等で倒伏した樹は、早急に起こし支柱を立てて誘引・固定する。また、根元を敷きワラ等で保護して樹勢の回復を促す。

③強風で折れた枝は早急に元に戻し、ヒモ等で結束する。枝折れがひどい場合は切り落とし、傷口に癒合剤を塗布する。

④マルチ栽培で被覆資材が損傷した場合は、直ちに修復するとともに、晴れ間をみてマルチを開放し土壌の乾燥に努める。

## (2) 施設栽培

①ハウス施設が損壊した場合には、早急に修復する。

②ハウス内に雨水が浸入した場合には、園外への排水を図る。また、ハウス内の湿度を下げるため、換気を十分に行う。

## (3) 落葉果樹類

①落果した果実はヤガ等の吸汁害虫が誘引されるため、集めて園外に持ち出す。

②果樹棚や防風ネット等の施設の損傷は早めに修理する。

③倒伏した樹は早急に立て直し、根元を保護して樹勢の回復を促す。

④強風によって枝葉が損傷しており、カキの炭疽病等を始めとした病原菌が感染しやすくなっているため、台風通過後は早急に薬剤散布を行う。

# VI 茶

## 1. 生育状況

現在は、秋芽の生育時期である。

## 2. 事前対策

(1) 大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回して集排水溝を点検し、不具合があるところを整備する。

(2) 幼木園はマルチの押さえを確認し、強風でマルチがはがれないようにする。

(3) 風向きによっては潮風害が発生するおそれがあるので、散水のための用水を確保しておく。

## 3. 事後対策

(1) 潮風害の発生が懸念される茶園では、台風通過後なるべく早く用水を散布し、付着した塩分を洗い流す。なお、潮風害が発生した場合、被害後直ちに整枝や剪枝は行わず、指導機関へ相談して対応する。

(2) 防霜施設の傾き、マルチの損傷、株の浮き上がり等を点検し、被害がある場合は速やかに元の状態に戻す。

# VII 畜産

## 1. 事前対策

### (1) 畜舎・家畜

①畜舎及び堆肥舎などの点検を行い、風雨の侵入を防止する。

②畜舎周辺の排水溝を清掃するなど排水対策を行う。

③畜舎周辺の施設や飼料タンクなどが暴風雨で飛ばないように確認し、必要であれば固定を強化する。



- ④庇陰樹の整枝、板、スレート材など飛来する可能性のある物を整理する。
- ⑤夜間の突発的作業や停電時に備えて、作業手順や道具の整理・整頓、自家発電装置、照明器具などの準備を行う。
- ⑥停電時には井戸ポンプが止まり家畜の飲料水が不足することがあるので、ポリタンク等に予備飲用水を確保する（牛一頭当たり：50（肥育）～150L（乳牛）/日、豚一頭当たり：30L/日、鶏1羽当たり：1L/日）。

## （2）飼料作物

- ①飼料作物は収穫できるものはすみやかに収穫する。また、ロールベールの倒壊や稲わら等の飛散防止に努める。
- ②WCS用稲の収穫に当たっては、生育ステージに十分留意して適切な時期に刈り取る。

## 2. 事後対策

### （1）畜舎・家畜

- ①家畜の観察をこまめに行い、異常家畜の早期発見に努める。
- ②畜舎に雨水などの侵入があった場合は直ちに清掃した後、逆性石鹼 500～1,000 倍液を  $1\text{L}/\text{m}^2 \sim 2\text{L}/\text{m}^2$  噴霧し、あるいは消石灰を散布して消毒する。
- ③敷料は、新しい敷料に交換するなど衛生対策の徹底を図る。
- ④安全確認後は、速やかに被災状況を確認し、被害を受けた施設があれば早期に補修、修繕を行う。また、家畜の事故につながる飛来物などの除去や電気配線等の切断や漏電に注意する。

### （2）飼料作物

- ①刈り取り間近のものや被害で倒伏したソルゴーなどは早めに収穫・調製する。
- ②圃場を巡回し、収穫に支障のある飛来物は早めに取り除く。
- ③倒伏したものを青刈り給与する場合は、刈り取り後風乾して泥土を落としてから家畜に給与する。
- ④ロールベールサイレージ等のラップが破れた場合は、破損部分を直ちに補修し早めに家畜に給与する。